



# OpenShift Dedicated 4

## レジストリー

OpenShift Dedicated 4 のレジストリーについて



## OpenShift Dedicated 4 レジストリー

---

OpenShift Dedicated 4 のレジストリーについて

## 法律上の通知

Copyright © 2020 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本書は、OpenShift Dedicated 4 に関連付けられたレジストリーの概要について説明します。

---

## 目次

第1章 イメージレジストリー .....	3
1.1. 統合 OPENSIFT DEDICATED レジストリー .....	3
第2章 レジストリーへのアクセス .....	4
2.1. クラスターからレジストリーへの直接アクセス .....	4



## 第1章 イメージレジストリー

### 1.1. 統合 OPENSIFT DEDICATED レジストリー

OpenShift Dedicated は、クラスター上の標準ワークロードとして実行されるコンテナイメージレジストリーでビルドを提供します。このレジストリーはインフラストラクチャー Operator によって設定され、管理されます。これはユーザーがワークロードを実行するイメージを管理するために追加設定なしで使用できるソリューションを提供し、既存のクラスターインフラストラクチャーの上部で実行されます。さらに、これはクラスターのユーザー認証および認可システムに統合されるため、イメージを作成し、取得するためのアクセスは、イメージリソースでユーザーのパーミッションを定義することによって制御できることを意味します。

通常、レジストリーはクラスター上にビルドされたイメージの公開ターゲットとして、またクラスター上で実行されるワークロードのイメージのソースとして使用されます。新規イメージがレジストリーにプッシュされると、クラスターにはその新規イメージについて通知され、他のコンポーネントは更新されたイメージに応答し、これを使用できます。

実際のイメージデータは、Red Hat が管理する s3 バケットに保存されます。標準のクラスター API によって公開され、アクセス制御を実行するために使用されるイメージメタデータは、標準的な API リソース、とくにイメージおよびイメージストリームとして保存されます。

## 第2章 レジストリーへのアクセス

レジストリーへのアクセス方法については、以下のセクションを参照してください。

レジストリーに直接アクセスし、**podman** コマンドを起動することが可能です。これにより、**podman push** や **podman pull** などの操作で統合レジストリーへ/からイメージを直接プッシュまたはプルすることができます。これを実行するには、**oc login** コマンドを使ってレジストリーにログインしている必要があります。実行できる操作は、以下のセクションで説明されているようにユーザーが持つパーミッションによって異なります。

### 2.1. クラスタからレジストリーへの直接アクセス

クラスタ内からレジストリーにアクセスすることができます。

#### 手順

内部ルートを使用して、クラスタからレジストリーにアクセスします。

1. アクセストークンを使用してコンテナイメージレジストリーにログインします。

```
$ podman login -u $(oc whoami) -p $(oc whoami -t) $(oc -n openshift-image-registry get route default-route -o jsonpath='{.spec.host}')
```

以下のようなログインを確認するメッセージが表示されるはずです。

```
Login Succeeded!
```

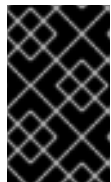


#### 注記

ユーザー名には任意の値を指定でき、トークンには必要な情報がすべて含まれます。コロンが含まれるユーザー名を指定すると、ログインに失敗します。

イメージレジストリー Operator はルートを作成するため、**default-route-openshift-image-registry.<cluster\_name>** のようになります。

2. レジストリーに対して **podman pull** および **podman push** 操作を実行します。



#### 重要

任意のイメージをプルできますが、**system:registry** ロールを追加している場合は、各自のプロジェクトにあるレジストリーにのみイメージをプッシュすることができます。

次の例では、以下を使用します。

Component	値
<registry_url>	<b>oc -n openshift-image-registry get route default-route -o jsonpath='{.spec.host}'</b>
<project>	<b>openshift</b>



Component	値
<image>	<b>image</b>
<tag>	省略 (デフォルトは <b>latest</b> )

- a. 任意のイメージをプルします。

```
$ podman pull name.io/image
```

- b. 新規イメージに **<registry\_url>:<project>/<image>** 形式でタグ付けします。プロジェクト名は、イメージを正しくレジストリーに配置し、これに後でアクセスできるようにするために OpenShift Dedicated のプル仕様に表示される必要があります。

```
$ podman tag name.io/image $(oc -n openshift-image-registry get route default-route -o jsonpath='{.spec.host}')/openshift/image
```



### 注記

指定されたプロジェクトについて **system:image-builder** ロールを持っている必要があります。このロールにより、ユーザーはイメージの書き出しやプッシュを実行できます。このロールが設定されていない場合には次の手順の **podman push** が失敗します。新規プロジェクトを作成し、イメージをプッシュしてテストできます。

- c. 新しくタグ付けされたイメージをレジストリーにプッシュします。

```
$ podman push $(oc -n openshift-image-registry get route default-route -o jsonpath='{.spec.host}')/openshift/image
```